

ちゅ ちむ美らさ

第95号

発行: 北部農林水産振興センター
農業改良普及課

住所: 沖縄県名護市大南1-13-11

電話: 0980-52-2752

FAX: 0980-51-1013



北部

土壌診断結果を活用しよう！

(1) pH

土壌の酸性、アルカリ性を示す指標です。作物により最適pHが異なり、土壌改良資材や肥料の施用により少しずつ変化するので、定期的に確認しましょう。

ポイント

アルカリ性に偏る(pH7.5以上)と新芽の黄化等の微量元素欠乏が発生しやすくなります。

最適pHより値が低い場合、石灰資材(炭カル、苦土石灰等)投入により最適pHに近づけましょう。

最適pHより値が高い場合、石灰資材の使用は控えましょう。(鶏糞は石灰が多いので注意してください。)

- 目次 -

1P ・土壌診断活用(pH, 苦土)

2P ・土壌診断活用(カリ, リン酸)

・台風対策(キク)

3P ・台風対策(果樹)

4P ・さとうきび栽培(適期かん水)

・伊平屋村のさとうきび



微量元素欠乏による新芽の黄化症状

ニガウリ

キク

メロン

(2) 交換性苦土(マグネシウム)

北部地区の露地栽培では苦土不足(下葉の葉脈間の黄化等)の傾向があります。pHを確認して畑に合った苦土資材を施用しましょう。

ポイント

pHが最適pHより高い場合、硫マグ等石灰を含まない資材を使用しましょう。

土壌診断結果を活用しよう！

(3) 交換性加里(カリウム)

北部地区の施設栽培は加里過剰による蓄積傾向があります。診断結果を参考に現在使用している肥料の配合成分を確認してみましょう。

ポイント

加里の蓄積が進むと、苦土肥料を施用しても苦土欠乏が発生しやすくなります。

(4) 可給態リン酸

北部地区の野菜施設栽培でリン酸過剰による蓄積傾向があります。値が100mg/100gを超える場合は、リン酸成分の少ない肥料を使用しましょう。

ポイント

リン酸の蓄積が進むと、鉄・亜鉛・銅等の微量元素欠乏が発生しやすくなります。

堆肥や肥料は**多すぎても、少なすぎても**生育障害が発生します。土壌診断結果を活用して、**適量施肥**を行いましょう！

(担当: 松村)

台風シーズン到来

適切な台風対策を行い、被害を軽減しましょう！



キクの対策事例

[事前対策]

防風ネットを利用し風対策を行う。



防風ネットのべたがけ



防風ネットの浮きがけ

[事後対策]

台風通過後には付着した泥や塩分を洗い流す。



付いた泥を洗い流す



台風通過後の除塩かん水

(担当: 下地)



パイナップルの対策事例

[事前対策]

- (1) 植付後の台風対策として日焼け防止ネット等をべたがけし、鉄筋等で周囲を抑え対策しましょう。
- (2) 収穫前の圃場では、倒伏防止・鳥獣害対策も兼ねてパイプ等で支え、ネットをパッカー等で押さえて、株全体を覆うようにしましょう。



[事後対策]

- (1) 植え付け苗の芯部に入った土を殺菌剤で除去しましょう。
- (2) めくれた日除ネットは早急に直し、日焼け対策を行いましょう。

(担当:儀武)



マンゴーの対策事例

[事前対策]

- (1) 強化型ハウス等は、内側にもネットを設置すると、防風効果が高いです。(写真)
ただし、パイプハウス等、ハウスへの負担が大きい場合は、ネットの張り方を工夫する必要があります。
- (2) 収穫終了後の圃地については、台風接近前に殺菌剤を散布し、台風後の病害を予防しましょう。



[事後対策]

- (1) 台風通過後には、速やかに殺菌剤を散布し、病害防除に努めましょう。
- (2) 塩害の恐れがある場合には、6時間以内に散水して除塩作業を行いましょう。(担当:島尻)



カンキツの対策事例

[事前対策]

- (1) 高接ぎ園については新梢を支柱、竹等で固定し、枝の折損防止に努めましょう。
- (2) 台風後の病害発生を防止するため、台風接近前に品目に応じた使用可能な殺菌剤を散布し、病害予防に努めましょう。
- (3) 大雨に備えて排水が不十分なほ場の排水対策を行っておきましょう。

[事後対策]

- (1) 潮風害の発生の恐れがある圃地については、台風通過後6時間以内にスプリンクラー、灌水用ホース等を利用し、10a当たり2~3tを目安に樹体を洗い流し、塩分除去に努めましょう。
- (2) 台風後の病害の拡大を防止するため、品目に応じた使用可能な殺菌剤を散布し、被害軽減に努めましょう。

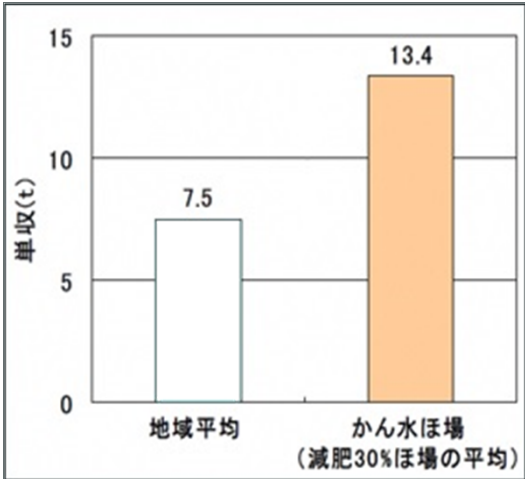
(担当:長堂)

どの品目も
停電に備えておくと
安心だね!



さとうきび栽培 ～梅雨明けからの適期かん水に努めましょう～

長い梅雨も明け、これから夏本番を迎えるところですが、さとうきびの生育は梅雨明け1週間で停滞が始まることが分かっています。梅雨明け後から9月まではさとうきびにとって最も生育旺盛な時期です。この時期に水が不足すると、茎の伸びが衰え、収量が低下してしまいます。雨の有無に関わらず、適期かん水を心がけ単収を向上させましょう！



適期かん水のポイント

定期的なかん水（梅雨明け直後～9月）かん水量は10a当たり35～40tの灌水を週に1回行うのが理想的です。

根群域（根っこ）増やすことも干ばつ対策につながります。

**植付け前の深耕（プラウ、バックホウ）
心土破碎（プラソイラ、サブソイラ）
高培土**

本島南部地域（作型：株出）の調査結果で、地域平均より約5.9 tの増収が報告されています。

伊平屋村のさとうきび生産

今期の伊平屋村のさとうきび生産は台風24号により折損や葉片裂傷等の被害が大きく、生産量の減少が懸念されていましたが、平年並みの単収となりました。また、近年の株出栽培の推進により栽培面積は増加傾向にあり、生産量は過去最高の実績となりました。

今後も単収向上に向けて、イネヨトウやアオドウガネ等の病虫害対策や、干ばつ対策、堆肥や緑肥による土作り等の推進を関係機関（役場、JA、県）が一体となって取り組んでいきます。

さとうきび生産実績の推移

	H 26 / 27	H 27 / 28	H 28 / 29	H 29 / 30	H 30 / 31
生産量(t)	3,441	4,361	6,003	5,367	6,136
収穫面積(ha)	106	121	131	156	168
単収(t/10a)	3.3	3.6	4.6	3.4	3.7

作型別面積割合の推移

	H 26 / 27	H 27 / 28	H 28 / 29	H 29 / 30	H 30 / 31
夏植	59.4	38.0	35.1	26.3	22.0
春植	7.6	9.1	11.5	16.0	10.7
株出	33.0	52.9	53.4	57.7	67.3



イネヨトウフェロモンチューブの設置



株出管理（株揃）

（担当：伊平屋駐在 與座）